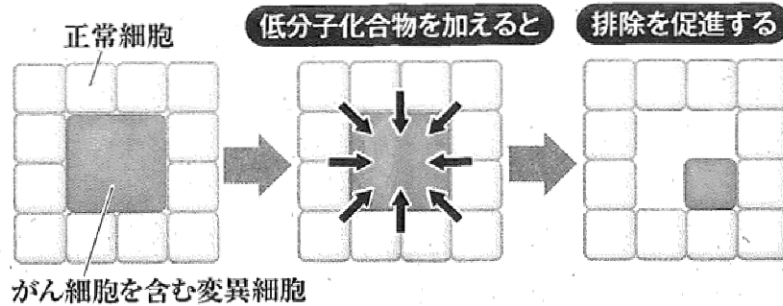


がん予防薬開発へ道

北大遺伝子病制御研究所の研究チームは26日、初期段階のがんの治療や予防に役立つ低分子化合物を見つけたことに成功したと発表した。この低分子化合物を、初期のがん細胞の周辺にある正常な細胞に加えること

低分子化合物を使った初期がんの治療方法のイメージ図



北大チーム、化合物発見 初期細胞を排除

で、がん細胞を排除する能力が高まるといふ。研究チームは「初期のがん細胞を見つけた診断が確立されれば、がん予防薬の開発につながる」と話している。

同研究所の藤田恭之教授（分子腫瘍）らの研究チームで、論文は20日付の英国の科学誌「サイエンティフィック・リポーツ」に公表した。人間の身体には少数の変異を持つ「がん前段階」の細胞が存在するが、それを予防的に排除する治療法は見つかっておらず、今回の発見で、薬によるがんの予防を実用化できる可能性が出てきた。

研究チームによると、今回はスクリーニング（ふるい分け）という手法で、正常細胞が持っている変異細胞を攻撃する能力を促進させる低分子化合物を見つけた。この低分子化合物を

実際にマウスや哺乳類の培養細胞に加えてみると、正常細胞の攻撃力が増すことを確認できた。

藤田教授は「現在研究している初期のがん細胞の診断方法についても早急に確立させ、将来的にがん予防薬を開発したい」と話す。

北海道新聞 1面
2015年10月27日
(火)